

安全衛生報

安衛委 No141
平成26年8月1日
安全衛生推進委員会

健康管理教室

六月十八日に行われた定期健康診断の結果を皆さんに配付致しましたが、その中で有所見者の方が沢山見受けられましたので、▲印の付いている方は、再精密検査を受け医師の指導のもと、治療をするなり生活習慣を見直して定期的に医師の診察を受けてください。△の付いている方は、自分なりに生活習慣を見直せば改善出来ると思いますので、適度の運動を行い、暴飲暴食を慎んでください。今年の健康管理教室は、八月二日（木）午後一時より船引事務所に於いて、清水医院理事長清水敬介先生に、個別指導をして頂くことになっておりますので、該当者は健康診断結果表を持参の上、指導を受けてください。



熱中症予防対策

熱中症にはさまざまな症状があります。めまいやふらつきなど熱中症の初期症状に気付いたらすぐ休むべきですが、もともと体調が悪いために頭痛や倦怠感を感じている方は、熱中症になっていても気付かないことがあります。また意識がもうろうとしてきて、自分の状態を判断できないまま急に意識を失う場合もあります。万が一熱中症を起きてしまった時には、適切に応急処置をする必要がありますが、次の点を観察しひとつでも当てはまれば、すぐ医療機関に連れて行ってください。

- ★本人の意識がはっきりしていない
- ★自分で水分や塩分が摂取できない
- ★症状がよくなるらない

熱くいれん
手足がふる、筋肉がけいれんする症状のときは、塩分を補給すれば通常はなおります。

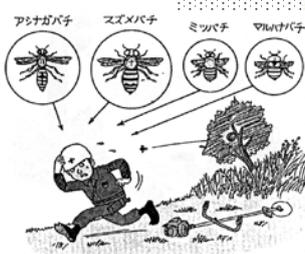
熱失神・熱疲労

めまい、全身倦怠感、嘔吐、頭痛の症状の時は、涼しい場所に運び衣服をゆるめて寝かせ、水分を補給すれば通常はなおります。

熱射病
体温が高い、意識障害、ふらつく言動が不自然の症状の時は、すぐに病院へ連れて行ってください。体温を下げる必要があるため、全身に水をかけたり、濡れたタオルを首や脇の下に当てて身体を冷やしてください。



蜂に注意



これから着工する現場では、草刈りや、測量、丁張りなど、雑草地に足を踏み入れることになり、夏場から秋にかけて蜂刺さるが増えます。局所症状では刺された箇所が赤く腫れたくらいで済みますが、全身症状になると喉が詰まったような感じがして胸が苦しくなったり、口が渴き、口の中がしびれたような感じがします。また、腹痛、下痢、吐き気を起こしたり、さらに頭痛、めまいがしてその場にうずくまってしまうことがあります。目が見えなくなったりして、意識がはっきりしなくなったりします。一刻を争って緊急処置をとらなければ、死亡してしまいますので、直ぐに救急車を呼んで病院で治療してください。

夏季休暇の現場体制

夏の期間に向けて県外からの帰省客や観光客等により、交通量の増加が見込まれることから、看板やバリケード等通行に支障を来すことのないようにすることや、休暇中無人となる工事現場に部外者の侵入による事故、災害、建設機械類の盗難及び事務所荒らしを防止する処置が必要です。休暇前には現場内の整理整頓、災害時等に備えての連絡体制を確実にしておいてください。持ち運びのできる機械類は、休暇前に会社に引き上げておいてください。